

## 第4次西宮市総合計画原案に対する意見

西宮市総合計画審議会

会長 辰馬 章夫 様

委員 第2部会 田中正剛

(意見)

審議会において、限られた時間の中で、取捨選択しながらではありますが、多くの意見を述べさせていただきました。審議会に受け入れられなかった意見のうち、原案に対して、以下の3点に絞って、改めて意見申し上げます。

### 【基本構想】

#### ○基本構想における基本目標について

標語として軽々しく掲げられている「ふれあい 感動」は、削除すべきであると考えます。特に、「感動」は、まちづくりの基本目標としては、どのようなまちの状態が、「感動できる状態」と言えるのか、客観的な達成指標が想定しがたいと考えます。また、これまでに、策定委員会や審議会等で出た意見を総合的に考えても、「ふれあい」には、結びつかないと考えます。

むしろ、これまでの議論の中で出た意見を総合的に考えると、今後も、住み続けたい「真の文教住宅都市」、住民が満足できる「文教住宅都市」を一層追求する必要性が増しており、そして、次世代に残せる状態に導くことが求められていると考えます。よって、これまでの様々な意見の最大公約数を取り、基本目標の標語は、わかりやすく、「持続可能な文教住宅都市」とすべきであると考えます。また、物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさや質的な豊かさなど、あらゆる意味において「豊かな社会の実現」を目指すことは、誰もが求めうることで考えます。一方で、価値観の多様化が進むなか、文教住宅都市で生活するなかで「ふれあい」を求めない市民も多く存在すると想定され、「ふれあい」が良いことであるという一つの考え方を、強要しかねない基本目標には賛同しがたいです。

よって私は、基本目標は「持続可能な文教住宅都市 ～豊かな社会を目指して～」とし、その後の政策や施策を設定すべきであると考えます。

### 【基本計画総論】

#### ○財政フレームについて

今回の審議会でもっとも大きな問題として議論されたことであると認識していますが、市の考え方は、別紙の通り示されています。審議会としての修正案として、計画に掲げた事業・施策の全部を実質事が困難な状況も予測されると表現するなど、意

味合いはかなり変わってきました。しかし、今後の10年間の行政運営の根幹を成す大事な総合計画の中で、ごまかしの様な表現で済ましてはいけない問題であると考えます。

具体的には、今後10年間で、GDP名目成長率を1.5%と予測して、計量経済学的手法を用いて試算し、915億円を充当可能な投資的財源の枠組みとして設定していることは、現状では、理解が得られるものではありません。可能性が全くないとは言いきれないまでも、可能性はきわめて低いと考えます。堅実な財政運営を進めながら、着実に実行できうる計画でなければ、計画自体の意味が薄れるどころか、進めるべき政策を誤らせる可能性があると考えます。また、市民に対して、過度に期待を持たせる結果となるという懸念も払拭しきれません。

よって、他の委員からも意見が出ているとおり、歳入の増加を0とする、もしくは、日ごろの財政資料として用いられる「西宮市の財政～西宮市の財政を考える（VI）」で示された積算に基づくなどして、再度、事業枠を設定し、各論を設計し直すべきと考えます。

#### 【基本計画各論】

##### ○まちづくり指標について

原案の基本計画各論において、章ごとに設定されている「まちづくり指標」は、政策目標の達成状況を図る客観的な指標としては、不相当と思われるものが多く見受けられました。特に、新たな箱もの（多世代ふれあいセンター）を整備する指標などは、論外であると考えます。こうした新たな取り組み、特に多額の事業費を伴う事業については、今後も、社会情勢や財政状況を鑑みながら、あらゆる場面で参画と協働の精神で議論されるべきものです。その趣旨は、基本構想にも述べられていると考えています。よって、「主要な施策」の項目において、「〇〇センター建設を検討する」といった表現にとどめるべきであると考えます。また、私が担当した部会では議論の対象になっていませんでしたが、各論の計画推進編のNO.4「健全な財政運営」において、まちづくり指標としてあがっている実質公債費比率については、すでに平成19年度の決算値で大きく目標値を上回っています。よって、この数値を維持していくという指標を設定するとともに、経常収支比率についても指標として示されてしかるべきと考えます。そして、原案で掲げられた「まちづくり指標」の中には、事務事業レベルの指標も数多く見受けられ（紙面と時間の都合上、具体例を挙げませんが、第2部回分に関しては議事録に残されています）、その指標が達成されれば、本当に政策目標の趣旨が達成されたと言えるのか疑問が残されています。

このように、政策目標の達成を図る指標というには、さらに慎重な議論が必要であり、今回の総合計画において掲げるには、時期尚早と考えます。よって、まちづくり指標自体の撤回も含めた再検討・精査をすべきであると改めて、意見を申し上げます。